

1. はじめに

私は理系科目を苦手としている。だが理科自体は嫌いではないため、少しでも理科に触れるべく博物館で高校生学芸員としての活動に臨んだ。私は中学2年のときから無脊椎動物に対して興味を持っていたためカタツムリにも関心があった。私はカタツムリの中でも群馬県内で絶滅危惧I類であるオモイガケナマイマイに興味を持った。このカタツムリは群馬県では約40年前に高橋茂さん（故人）が叶山で発見して以来、群馬で見つかってないことを知り、私が見つけたいと思った。

オモイガケナマイマイ(図1)は石灰岩地を特産とし、極めて特異な殻を有する陸産貝類である。殻の特徴として、貝殻は小型で薄質、淡黄褐色、円盤状で上部は著しく偏平、下部に膨れる。殻表は多少の光沢をもち、殻皮毛は無い。体層周縁には強い龍角をもつ。臍孔は広く開き殻径の1/3に達する。

群馬県内でのオモイガケナマイマイは神流町（旧中里村）の叶山のごく一部地域に生息している。全

国では愛知県（豊橋市石巻山）、静岡県（天竜市二俣）、東京都（奥多摩町日原鍾乳洞付近）の石灰岩地

帯に分布する。埼玉県（横瀬村武甲山山麓）の生息地は1964年頃に石灰岩採掘によって破壊されて本種は絶滅してしまった。

また、オモイガケナマイマイは東京都奥多摩など関東地方の西部産地にも分布するとされていたが、関東地方のものは形態が異なり別種である（西，2010、武田・西，2015）とされている。このため、本研究は、東海地方のオモイガケナマイマイや東京都奥多摩のオモイガケナマイマイと、群馬県叶山のオモイガケナマイマイが同種であるか別種であるかを確認するためにも重要である。

これらの理由から、オモイガケナマイマイを見つけないと目的を達成するために、本研究を高橋茂さんがこのカタツムリを発見した叶山で行った。



図1 オモイガケナマイマイ(群馬県立自然史博物館収蔵標本)

2. 調査方法

(1) 現地調査活動

- ・2016年 7月23日、8月24日、9月11日、11月13日、11月20日の計5日間。
- ・調査場所 神流町、叶山（図2）
- ・野外調査でカタツムリの採取（フィールドワーク）を行った。

(2) 採取したカタツムリの標本化作業

- ・カタツムリの洗浄…カタツムリを煮沸することで殺菌・殺虫し、それからカタツムリの殻を水でゆすぎ、殻の内外の汚れを落とした。
- ・カタツムリの同定…図鑑や博物館に保管されている標本と見比べ、名前を決めた。顕微鏡を使い、殻の微細なつくりや鱗皮状彫刻などを観察する。

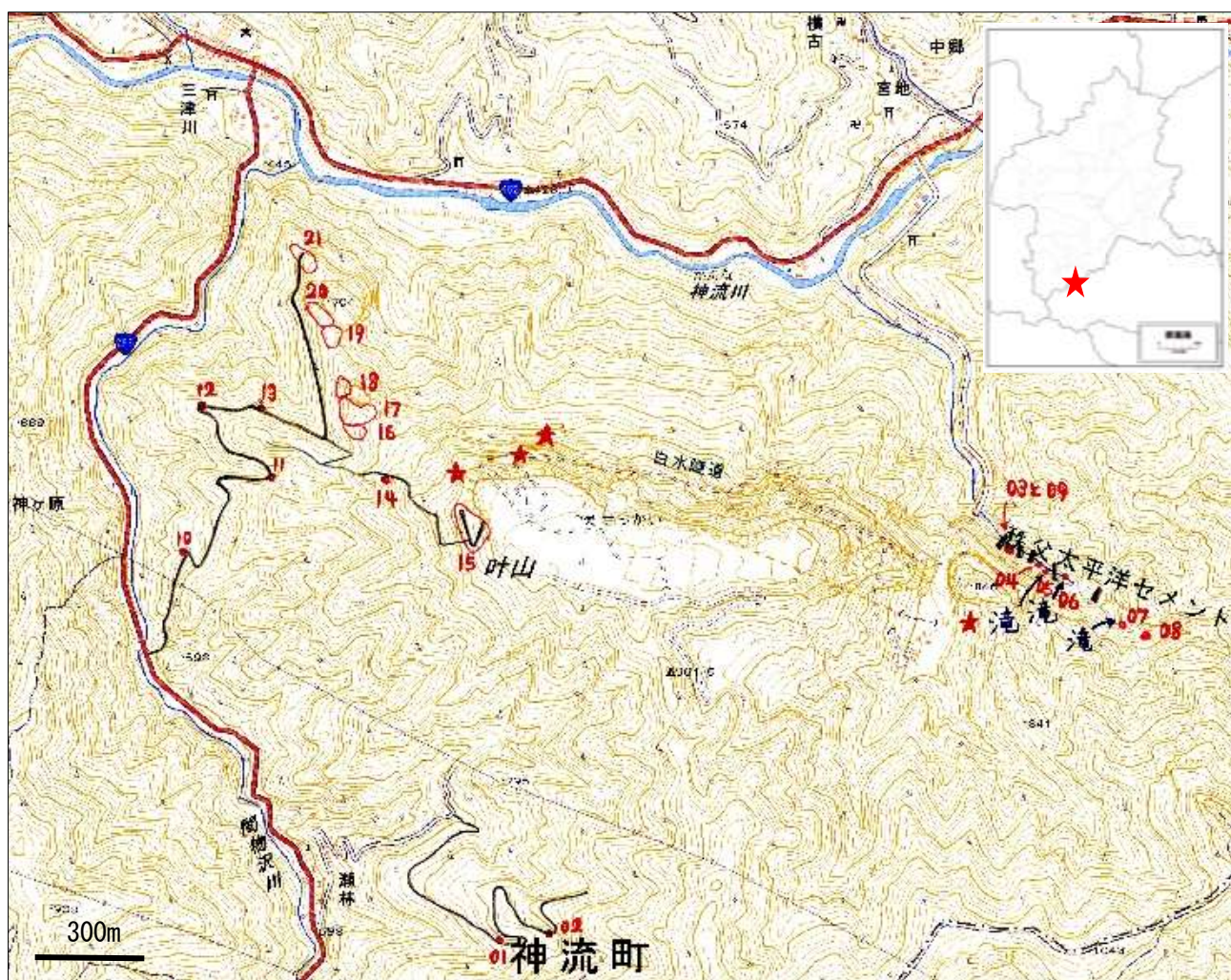


図2 調査地域地図(国土地理院地図を使用)

3. 調査結果

- ① オモイガケナマイマイ(*Aegista inexpectata*)は見つからなかった。
- ② 他に発見したカタツムリは絶滅危惧種3種を含め18種(表1)である。
- ③ 発見したサンプルは群馬県立自然史博物館に収蔵される。

表1 採集できたカタツムリ一覧(発見場所は図2に対応する)

発見場所	調査日	サンプル 番号	発見種名
01	20160723	01	チャイロヒダリマキマイマイ
02	20160723	02	ニッポンマイマイ
03	20160723	03	ヤマキサゴ、フトキセルガイモドキ、ウラジロベッコウ、ニッポンマイマイ、ミスジマイマイ、ミスジマイマイ(生)、チャイロヒダリマキマイマイ
04	20160824	01	ミスジマイマイ
05	20160824	02	フトキセルガイモドキ、ミスジマイマイ
06	20160824	03	オオケマイマイ、ミスジマイマイ
07	20160824	04	オオケマイマイ、ミスジマイマイ

08	20160824	05	ミスジマイマイ
09	20160824	06	ヤマキサゴ、ニッポンマイマイ、ミスジマイマイ、チャイロヒダリマキマイマイ
10	20160911	01	コケラマイマイ、オオケマイマイ、チャイロヒダリマキマイマイ
11	20160911	02	ピロウドマイマイ属、チャイロヒダリマキマイマイ
12	20160911	03	ミスジマイマイ
13	20160911	04	コケラマイマイ(生)、ミスジマイマイ
14	20160911	05	コケラマイマイ、ミスジマイマイ
15	20160911	06	フトキセルガイモドキ、ピロウドマイマイ属、コケラマイマイ、ミスジマイマイ、チャイロヒダリマキマイマイ
16	20161113	01	フトキセルガイモドキ、キセルガイモドキ、ツムガタモドキギセル、ナミギセル、オカチョウジガイ、ヒメベッコウガイ、ニッポンマイマイ、ピロウドマイマイ属、コケラマイマイ、オオケマイマイ、ミスジマイマイ、チャイロヒダリマキマイマイ
17	20161113	02	クチマガリスナガイ、フトキセルガイモドキ、キセルガイモドキ、ツムガタモドキギセル、ナミギセル、ニッポンマイマイ、ピロウドマイマイ属、オオケマイマイ、ミスジマイマイ
18	20161113	03	ヤマキサゴ、キセルガイモドキ、ツムガタモドキギセル、ナミギセル、ニッポンマイマイ、ピロウドマイマイ属、コケラマイマイ、オオケマイマイ、ミスジマイマイ、ヒダリマキマイマイ
19	20161120	01	フトキセルガイモドキ、ナミギセル、オオケマイマイ、ミスジマイマイ、チャイロヒダリマキマイマイ
20	20161120	02	クチマガリスナガイ、フトキセルガイモドキ、キセルガイモドキ、ツムガタモドキギセル、ナミギセル、オオウエキビ、ニッポンマイマイ、オオケマイマイ、ミスジマイマイ、チャイロヒダリマキマイマイ、タワラガイ、
21	20161120	03	ツムガタモドキギセル、ナミギセル、コベソマイマイ、オオケマイマイ、ミスジマイマイ、チャイロヒダリマキマイマイ

ヤマキサゴ科

- ・ヤマキサゴ 学名 *Waldemaria japonica* 発見場所 03,09,18

ラッパガイ科

- ・クチマガリスナガイ 学名 *Bensonella plicidens* 発見場所 17,20

キセルガイモドキ科

- ・フトキセルガイモドキ 学名 *Mirus japonicus* 発見場所 03,05,15,16,17,19,20
- ・キセルガイモドキ 学名 *Mirus reinianus* 発見場所 16,17,18,20

キセルガイ科

- ・ツムガタモドキギセル 学名 *Pinguiphaedusa platydera platyauchen* 発見場所 16,17,18,20,21
- ・ナミギセル 学名 *Stereophaedusa japonica* 発見場所 16, 17,18,19,20,21

オカクチキレガイ科

- ・オカチョウジガイ 学名 *Allopeas clavulinum kyotoense* 発見場所 16

ベッコウマイマイ科

- ・オオウエキビ 学名 *Trochochlamys fraternal* 発見場所 20

・ヒメベッコウガイ 学名 *Discoconulus sinapidium* 発見場所 16

・ウラジロベッコウ 学名 *Urazirochlamys doenitzii* 発見場所 03

ナンバンマイマイ科

・コベソマイマイ 学名 *Satsuma myomphala* 発見場所 21

・ニッポンマイマイ 学名 *Satsuma japonica japonica* 発見場所 02,03,09,16,17,18,20

・ピロウドマイマイ属 学名 *Nipponochloritis* sp. 発見場所 11,15,16,17,18

オナジマイマイ科

・コケラマイマイ 学名 *Aegista mikuriyensis* 発見場所 10,13,14,15,16,18

・オオケマイマイ 学名 *Aegista vulgivaga* 発見場所 06,07,10,16,17,18,19,20,21

・ミスジマイマイ 学名 *Euhadra peliomphala*

発見場所 03,04,05,06,07,08,09,12,13,14,15,16,17,18,19,20,21

・チャイロヒダリマキマイマイ 学名 *Euhadra quaesita montium*

発見場所 01,03,06,09,10,11,15,16,19,20,21

タワラガイ科

・タワラガイ 学名 *Sinoennea iwakawa* 発見場所 20

今回の叶山の調査では、群馬県が指定する絶滅危惧Ⅰ類のオモイガケナマイマイは発見できなかったが、同じく絶滅危惧Ⅰ類のクチマガリスナガイ、同じく絶滅危惧Ⅱ類のピロウドマイマイ属、コケラマイマイを発見することができた。

4. 考察

今回の調査ではオモイガケナマイマイを発見できなかったが、オモイガケナマイマイはまだ叶山で生息していると期待したい。その理由は、私が 5 回の現地調査を行った中で、高橋茂さんがオモイガケナマイマイを発見した場所（図 2 の★）へ正確に調査に行けたとは言えず、5 回という調査回数では少なかつたために、たまたま見つからなかったのかもしれないと考えたからである。また、クチマガリスナガイはオモイガケナマイマイと同様に絶滅危惧Ⅰ類であり石灰岩地特有のカタツムリであるが、今回の調査で見つけることができた。よってオモイガケナマイマイの生息を裏付ける要因の一つとなりうるかもしれない。埼玉県武甲山の生息地は石灰岩の採掘によって絶滅してしまったが、叶山はまだ採掘途中である。従ってオモイガケナマイマイの必要とする石灰岩は現在も存在するため今も生息していると期待したい。

とはいえ 40 年前と比べ叶山の石灰岩採掘は進み、山頂部は人工的な平坦地ができている。このため、オモイガケナマイマイの生息域は確実に狭くなっている可能性がある。したがってオモイガケナマイマイの生息は難しく、もしかしたらオモイガケナマイマイは叶山にいないと言い難いのもかもしれないと思う部分もある。

参考文献

東正雄 (1995) 原色日本陸産貝類図鑑 増補改訂版.

清水良治 (2012) 群馬県の絶滅の恐れのある野生生物 動物編 2012 年改訂版. 251-273.

武田晋一・西浩孝 (2015) カタツムリハンドブック.